



2026 北海道要請行動（医療・看護分野）

報酬のさらなる引き上げ、賃上げ、人材確保などについて議論

道医労連は6月15日に北海道へ「地域医療を守り、安全でゆきとどいた医療・介護を実現する施策の強化を求める要請書」を提出しました。この要請書への回答が出されたことを踏まえ、7月10日(金)に北海道福祉保健部と懇談を行いました。

8組織17名が参加し、医療・看護分野に関する要請書に挙げられている「診療報酬、賃金について」、「看護労働者の勤務環境改善、確保について」、「医師の働き方改革に伴うタスクシフト及び看護師の特定行為について」、「医療提供体制・制度について」の4点に加え、医療介護共通事項として「人材確保制度の適正化」を要請し、高額な有料職業紹介事業者を規制し、公的職業紹介機能の強化を求めました。

北海道福祉保健部の担当者からは、「人材不足や地域医療の課題は認識しており、既存の人材確保・支援策を進めているが、賃上げや人員不足の抜本的改善には至っておらず、国の制度改正や今後の検討を注視しながら対応していく」という回答がありました。北海道がケア労働者に向けた独自政策を実施する事など、私たちの切実な要求実現のために、継続して声を上げていきましょう!!

参加者の発言内容



道東勤医労 吉田さん

医療現場の賃上げは他産業と比べて不十分で、増収しても赤字補填に回り賃上げに充てられない。賃上げには診療報酬の大幅引き上げが必要。ベッド数削減の議論については、地域住民や医療従事者の思いを汲むよう国に求めて欲しい。



北海道勤医労 伊達さん

ベア評価料は一定の改善があったものの、依然として不十分である。特に院内給食など制度上の対象外となる職場では賃上げが進まず、より待遇の良い職場への流出も生じているため、制度のはざまにある職場への国の支援を求めたい。



道医労連書記局 三浦書記次長

報酬改定が賃上げとならず手当支給にとどまり、離職も増えている。函館の病院では人員不足から患者の食事の見守りを行う「院内バイト」も始まっている。ハローワークの有効活用なども踏まえ、人員確保のための施策と大幅な報酬引き上げが必要。



道医労連書記局 坂本書記長

道独自の人材確保策が示されているが、組合としては現状の制度では不十分で、人材不足に歯止めがかかっていないと認識している。ケア労働者の賃上げにつながる対策も必要で、財源確保の課題はあるとしても、道独自の処遇改善策を求めたい。



道医療一般 佐賀梢さん

子育て中の看護職員は、病児の看護で無給休暇や時短勤務を余儀なくされるなど負担が大きい。病児保育の充実を求めるとともに、新人育成だけでなく職員の定着につながる取り組みも必要。ぜひ前進させて欲しい。



名寄市内の養成校では、看護師を目指す学生の約7割が看護師にならないと回答し、残る学生も賃金を理由に訪問看護を希望する傾向がある。医療現場での看護師確保が困難な危機的状況について、道の対策を求めたい。

名寄東病院 木村さん



子育て中の看護師は夜勤に入れなくても配置に含まれるため、現場は若手とベテランに偏る懸念があり、配置基準の改善を求めたい。院内保育所の処遇改善も必要。赤字であっても公的医療機関は地域医療を守る砦であることを国に求めてほしい。

全医労 小松さん



看護師が札幌市や訪問看護に偏在し、医療現場では慢性的な人手不足と夜勤負担が続いている。看護師不足問題は道として現場実態のさらなる理解をお願いしたい。また、在宅分野の研修についても、実施体制や内容の充実を求めたい。

北海道勤医労 佐賀しおりさん



多忙でナースコールへの対応が15分後となってしまう、患者から不満の声を聞き、心が痛くなる経験をした。看護師の負担軽減だけでなく、地域住民が安心して入院できる医療体制を確保するため、人員配置基準の改善が必要。

全医労 三上さん



2040年に向け高齢者人口の減少が見込まれる一方、現場では人材不足が深刻化している。現場ではケアの質を維持しながら離職を防ぐことは大変困難な状況であり、道として人材確保につながる対策を行って欲しい。

北海道勤医労 隼野さん



患者の高齢化でケアの量が増え、現行の配置基準は現場状況に見合っていない内容となっているため、ケアが行き届かず患者の安心も守れない。診療報酬の引き上げとともに、地方の訪問看護不足や看取りの困難さの改善も求めたい。

国共斗南 中野さん



現場では腰痛が原因で離職する看護師が増えており対策が必要。また、地方では訪問診療の際、地域をまたいだ移動が必要で医療資源不足が深刻。住み慣れた地域で最期を迎えることも困難となっており、地方の医療サービスの充実と人材確保が必要。

北海道勤医労 桑田さん



国会議員要請で地域の実態を伝える中、旭川でも病院統廃合が進められているという話を聞いた。道内の多くの自治体は人口減少も進み、地域に住み続けることが困難となる状況が想定され、危機感を持っている。地域医療の維持が道の課題と考える。

道北勤医労 宮越さん



医師数は増加しているものの、勤務医の労働時間は依然として過労死につながる水準にある。退院時サマリーなど、タスクシフトにより医師以外が担う業務も増えたが、医師が本来担わなければならない業務に専念できるよう、体制の整備が必要。

北海道勤医労 濱谷さん



2026 北海道要請行動（介護分野）

報酬改定、賃上げ、人材確保と育成について議論

道医労連は6月15日に北海道へ「地域医療を守り、安全でゆきとどいた医療・介護を実現する施策の強化を求める要請書」を提出しました。この要請書への回答が出されたことを踏まえ、7月10日(金)に北海道福祉保健部と懇談を行いました。

8組織から17名が参加し、介護分野に関する要請項目に挙げられている「介護報酬、賃金について」、「介護職員の労働条件改善と人材確保について」、「介護事業の安定した運営を保障すること」の3点に加え、医療介護共通事項として「人材確保制度の適正化」を要請し、高額な有料職業紹介事業者を規制し、公的職業紹介機能の強化を求めました。

介護分野の要請に対し、北海道福祉保健部の担当者からは「介護職員の処遇や事業者の厳しい経営状況、人材不足、ケアマネの負担増など、介護現場が抱える課題は認識している。補助金の活用や人材確保、条件不利地域のサービス確保や処遇改善などについて国へ要望し、道としても施策や啓発を進めていく」と回答があり、介護分野の課題は共通の認識であり、国に対しても是正を求めていくことが確認されました。引き続き、ケア労働者の要求実現のために声を上げていきましょう!!

参加者の発言内容



道東勤医労 吉田さん

26春闘では回答の半数程度が手当支給にとどまり、今回の介護報酬引き上げ後も他産業との賃金格差が拡大している。人材確保には高校生への働きかけが必要だが、教育現場では介護職を勧めにくい実態があるようなので、改善が必要なのではないか。



北海道勤医労 伊達さん

国の補正予算による支援について、期限内に申請しても入金時期が見通せない状況があり、有効活用できていない。6月から賃上げを実施するにも、資金力のない事業所では原資を確保できず賃上げにつなげられないため、さらなる報酬引き上げが必要。



北海道勤医労 桑田さん

介護施設では外国人労働者が増えていると実感しており、道内の就労状況や介護分野における外国人労働者の実態把握が必要ではないか。また、ICT導入を進めるための助成制度についても、多くの事業所で活用できるよう周知を広げてほしい。



道医労連 千葉書記次長

ケアマネの資格が国家資格であるとの見解が示されたが、道としても国家資格として認識しているのであれば、更新費用の廃止だけでなく、ケアマネ資格取得後に必要となる実務研修の費用も廃止するなど、国家資格に相応しい資格に位置付けてほしい。



北海道勤医労 井上さん

介護福祉士の就労実態については最新状況を把握し、ヘルパーなど介護従事者全体の实態も調査して、潜在的人材の掘り起こしを道として進めてほしい。また、ケアマネ刺殺事件を踏まえ、居宅訪問時の複数訪問など安全確保策が必要。介護サービスの質を守るには賃金・労働条件の改善が不可欠である。道が主体となって北海道の厳しい地理・気候条件に見合った対策を講じるよう、国に強く求めてほしい。